

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を2時10分といたします。

〈午後2時00分 休憩〉

〈午後2時10分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

初めての議会で質問して以来、通算で60回目の一般質問となります。今回の質問は、糸魚川地域医療体制と駅北大火からの復興まちづくりについてです。

地域医療については、平成19年6月に旧姫川病院が突然閉院し、議会では直後に全員協議会が開催され、閉院の理由について、医師の減少と診療報酬の改定により収入が減少し、組合理事会にて自立・再建困難と判断が下された。市からの支援もあったが、開設当初からの債務持ち越しがあり、閉院に至ったとの説明がありました。また、既に4月から医師不足で、救急医療に対応できていなかった。114の病床と医師及び看護師など医療機能の存続ができなければ、救急医療や糸魚川総合病院の診療に影響を及ぼしかねないと報告されました。

しかし、実際には影響を及ぼしかねないどころの話ではなく、現場は大混乱し、大切な命を失った市民もいらっしゃいました。このときのご家族の悲しみや怒りを私たちは忘れてはいけません。市民を医療崩壊の崖っ縁に立たせてはいけなさと私は常に大いなる危機感を持ち、毎年毎年一般質問で地域医療の状況と課題を確認してきました。

米田市長におかれましても最優先で医療確保に取り組んでいただいておりますが、最近の県内での例を引くまでもなく、当地域の医療崩壊への危機感は現在進行形のものとして存じます。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

質問1、地域医療の課題、医療人財確保、医療介護地域包括ケアについて。

- (1) 糸魚川圏域の医師等医療スタッフの確保、その現状と課題について伺います。
- (2) 糸魚川総合病院での診療科確保、その現状と課題について伺います。
- (3) 医院や診療所の確保、病院との連携、その現状と課題について伺います。

- (4) みんなで支える地域医療体制づくり、その現状と課題について伺います。
- (5) 医療介護地域包括ケアにおける保健師、栄養士の配置と活用について伺います。
- (6) 糸魚川市の地域包括ケアシステムを進める意識改革、機構改革、制度改革における行政の役割について伺います。

次に、駅北大火からの復興再生について質問します。

昨年8月に糸魚川市駅北復興まちづくり計画が策定され、実行に移ったものもあります。この動きに対する市民の声を私なりに聞き、検証してまいりました。そういった中から、生活再建のための施設を望む市民の声を1つご紹介します。

被災場所に帰って生活する方や周辺地区の皆さんが今一番困っているのは、毎日の食事の食材店が近所にないということです。町なかとはいえ、ここは高齢者が圧倒的に多い。生鮮野菜を新鮮な地元の物を食べたいので、買いにいける場所が近くに欲しいと皆さんが言っています。いろんな場面・場所で市のスローガンなのか、安心して長く住み続けられるまちと聞きますが、食こそ人間が生きる上で欠くべからざる大事なことです。

J Aの食彩館のようなところで野菜でも魚でも肉でも毎日の生活に必要な新鮮なものが買える場所が望まれています。加えて、そういった地元食材を使った郷土料理・郷土食を食べさせるコーナーやお店をつくったら、日常的にも観光的にも役立つと思いますので、ぜひ議会で取り上げてくださいというものです。

また、一方で、復興マルシェの広場イベントがにぎやかに行われていますが、これが誰のための何のためのものかわからない。いつまで続くのかもわからない。そもそも行政が企てるにぎわいづくりとは何だかわからないとの声もあります。その点については私も大いに心配しています。

そこで、これまでの私の一般質問の再質問を交えながら、以下通告書に基づき伺います。

質問2、駅北大火からの復興再生について。

- (1) 駅北大火からの復興再生の進捗状況について伺います。
- (2) 被災者や地域住民の思いに沿った、市民が主役の復興再生になっているか伺います。
- (3) 雁木再生、本町通りのにぎわいなど、糸魚川らしさや個性を生かす復興再生になっているか伺います。
- (4) 「水の空間」と「緑の空間」を配置して、すてきな景観づくりと防災強化の両面に生かす復興再生になっているか伺います。
- (5) 街なかのにぎわいづくりや生活に必要な駐車場などの配置について伺います。
- (6) 空き地での大がかりなイベントへの投資と効果について、経費と行政の負担について伺います。
- (7) 被災地近くに生鮮野菜等の販売所をとの市民の声がありますが、その対応について伺います。
- (8) 被災地近くに市営図書館と地域を学び子供を育む公共施設をとの市民の声がありますが、その対応について伺います。
- (9) 最近耳にする「まちやど」の構想を取り入れた復興再生について伺います。
- (10) 「エリアリノベーション」の仕組みを取り入れた復興再生について伺います。
- (11) 昭和7年の大火からの糸魚川復興に見られる当時のリーダーのバイタリティーと比較し

て、今の米田市長の基本姿勢との差を感じるとの市民の声を聞きました。その点について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年4月1日現在で医師74人、看護師は28年12月末現在で286人となっており、医師・看護師ともに増加しているものの、国・県平均より少ない状況であり、医師・看護師の確保に引き続き努めてまいります。

2点目につきましては、医師数は増加しておりますが、常勤医師が不在の診療科目があることから、医師確保が課題であります。

3点目につきましては、開業医の高齢化により減少が予測されることから、一次救急に影響があるものと考えております。今後も糸魚川総合病院や医師会と連携をした体制整備を図ることが必要であります。

4点目につきましては、市民に地域医療の現状を理解していただくことが課題であり、市民と医療、福祉関係者、行政が協働して、地域医療体制をつくり上げていくことが重要であると考えております。

5点目につきましては、地域包括ケアシステムの中で保健師、栄養士は、介護予防と健康づくりでの助言・指導の役割を果たしており、市においては栄養士は、健康部門に配置、保健師は健康部門と福祉部門にそれぞれ配置し、連携しながら活動いたしております。

6点目につきましては、保健・医療・福祉にかかわる多職種の連携だけでなく、地域や市民を巻き込んだ支援体制の構築のため、それぞれの役割を理解し、進めていく必要があります。行政の大きな役割であると考えております。

2番目の1点目につきましては、市道拡幅や敷地再編事業がおおむね完了し、被災地での生活や事業も再開している方も見られる状況であります。

2点目につきましては、発災以降、被災者に寄り添うことを第一としており、ブロック別の意見交換会や商店街組合など各団体との意見交換会を開催し、情報提供や意向の把握に努めております。

3点目につきましては、雁木と本町通りのにぎわいの再生は、今回の大火からの復興における象徴的な位置づけと捉え、引き続き、現実に向けた取り組みを進めてまいります。

4点目につきましては、今年度整備を予定しておる防災機能を有する広場において、水と緑に触れることのできる空間を創出できるように進めてまいります。

5点目につきましては、今後、整備をするにぎわい創出広場や商店街を利用できる方の利便性の高い駐車場を確保するべく、関係者と協議を進めてまいります。

6点目につきましては、にぎわい創出広場の仮整備後、各種団体によりイベントが開催されており、町なかのにぎわい創出に効果があったものと考えております。開催経費は5回で総額280万円ほどであり、うち市の負担額は約120万円であります。

7点目につきましては、生鮮食料品を扱う店舗も新たに開設されたところありますが、引き続き関係機関と協議をしております。

8点目につきましては、にぎわい創出の中で子ども・子育て世帯にとって何が必要か検討しております。

9点目と10点目につきましては、被災地とその周辺を1つの宿に見立てて、既存の空き店舗等を少しずつ再生するなど食事や買い物など多くの機能を備えることにより、エリア全体の価値と魅力を高めていきたいと考えております。

11点目につきましては、引き続き被災者に寄り添いながら、安全で住みやすいにぎわいのあるまちづくりを進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川地域医療体制の2回目の質問です。

毎年伺っていますが、糸魚川圏域の医師・看護師の人口10万人当たりの数で国・県、県内他市との比較とその分析、医療関係の技師や専門職の確保について、またその辺もどのように分析しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

まず医師の10万人当たりの人数ですが、糸魚川市においては170.0人です。比較といたしまして、国においては251.7人、県では205.5人、近隣の上越市では、195.4人となっております。続いて看護師ですが、糸魚川市においての10万人当たりが657.0人、国が905.5人、県が959.7人、上越市が1,103.0人です。

分析としましては、医師数・看護師数とも国・県などと比較し、少ない状況であります。医師・看護師の確保については、大きな課題として捉えております。

医師・看護師以外の医療スタッフですが、糸魚川総合病院では平成27年に回復期病棟を整備したこともありまして、リハビリ分野の強化を目指しております。そのため今後は、医学療法士などのリハビリの専門職の増員や確保が必要であると考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川地域医療体制の中核となる糸魚川総合病院での診療科の確保、その現状と課題について伺います。

昨年の春に医師が6名ふえて診療科が確保できましたが、その後の状況についてはいかがか。また、市内、患者のニーズに対応した診療科の確保に向けて糸魚川総合病院とはどのような話をしているか。医師確保・診療科確保の要となる富山大学、新潟大学との連携はうまくいっているのか。それぞれ伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

昨年より内科医師が1名、研修医が3名増加しております。糸魚川総合病院とは、医師確保についての情報交換を行っておりまして、特に常勤医師不在の診療科目の医師確保対策について話し合っております。大学との連携では、富山大学には毎年、市長が要望に伺っており、各科の教授からは理解を示していただいております。新潟大学には、県や糸魚川総合病院と連携して、要望活動を行っておりまして、継続して派遣をいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川総合病院の麻酔科、それから内科では、呼吸器と泌尿器と糖尿病の対応、耳鼻咽喉科、産婦人科で課題があると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

麻酔科においては、長年勤務いただいた医師が、ことしの3月末で退職されるに当たりまして、後任の医師の確保について糸魚川総合病院に確認をしておりましたところ、病院独自で医師確保に努めていただいたということで、今年度も2名体制を維持しております。

呼吸器内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、糖尿病は、非常勤医師が診療を行っておりますが、高齢の多い本市にとっては、常勤医師の配置が望まれます。特に糸魚川地域は、糖尿病の専門医の常勤医師が不在でありますので、慢性腎臓病などの重症化予防を図るためにも常勤医師の確保に努めていきたいと考えております。

産婦人科医師については、2年前に市内産婦人科利用促進プロジェクトを立ち上げまして、継続して取り組んでおります。この取り組みは、富山大学からも評価され、今年度も産婦人科医師の2名体制が維持されております。今後も病院と連携したプロジェクト事業を進めまして、医師確保に取り組んでまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

わかりました。糸魚川総合病院の機関紙「まいほすびたる」の最新号に、膵臓疾患の治療について特集記事があります。膵臓は観察しにくい臓器であると。膵臓がんの早期発見が困難とありますが、ここへの対応は市民の望むところです。行政からの支援を強化していただきたいのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

糸魚川総合病院では、新しい内視鏡を導入し、内科と外科が連携して膵臓疾患の治療に取り組んでおります。

また、このたび富山大学に膵臓疾患において、全国でも著名な内科と外科の医師が教授として着任いたしました。糸魚川総合病院は、富山大学との連携がとれておりますことから、その先生方に定期的においでいただきまして、早期発見・早期治療に取り組んでいただいております。今後も継続しておいでいただけるように糸魚川総合病院と連携して要望してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いいニュースでしたね。富山大学との連携は、糸魚川市民の命綱です。これをさらに太く強くしていただきたい。

では、具体的に何ができるのか。医師確保でいえば便利な新幹線通勤や大学での研究への支援などが考えられますが、行政ではどのようなことを考え、実施していこうとしているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

富山大学との連携は、非常に重要であると考えております。現在、非常勤医の派遣に係る通勤費用の補助ですとか、大学と連携した研究への支援も行っております。新幹線通勤補助については、糸魚川総合病院に現状などを確認いたしまして、医師確保対策事業の中で対応を検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

本来であれば、お医者さんに糸魚川に住んでいただくのがいいんだけど、そこのところを新幹線を使っていこうということですね。そちらのほうを十分検討していただきたいと思います。お願いいたします。

続きまして、総合診療医の育成と確保、それから研修医とのマッチング、医学生の現場研修の受

け入れなどで、糸魚川総合病院の医師確保策と診療科の確保策がうまくいくことで市民の医療が保たれていますが、他市の事例を見れば大変苦勞されているところもあります。糸魚川の医師確保策も今はよい方向かもしれませんが、国の制度が変わったり、大学からの医師の引き上げによって、いつ何時、姫川病院閉院のような危機感が襲ってくるとも限らない。このことを常に心配するのが市長、行政であり、議会であると思いますけども、米田市長の所見を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今現在、行っておるいろんな施策や制度、これについても富山大学に要望に行きながら情報交換をさせていただく中で、我々是对応させていただいた部分がございます。ですから、要望というのは、お願いにいくだけではなくて、情報交換をさせていただいたり、いろいろ意見交換をさせていただく中で、我々はいかにこの医師の環境を整えていくか、医師のおいでいただく個の対応をしていくかというところが大事だと思っております。これからも今いろいろとご意見いただいているように医師確保について、また地域医療については、非常に綱渡りのなところが結構ございます。そういったところをやはりまだまだ十分でないところが数多くあるわけがございますので、そういったところをこれからも引き続き意見交換をさせていただいたり、大学病院とそういった連携を密にしながら、我々は糸魚川独自としての対応をしていきたいと思っております。引き続き、地域医療のやはり大きな要となる医師確保はしっかり努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

続いて、医院や診療所の確保、病院との連携、その現状と課題を担当課にお伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

先ほど市長が答弁したとおり、開業されている先生方の高齢化により、今後、開業医の減少が予想されます。医師会に一次救急を担っていただいておりますが、高齢になると一次救急に執務することが負担になることも考えられますので、今後、医師会や病院との連携をさらに強化していくことが必要であると考えております。

また、新規診療所の開設については、平成20年度から現在までに診療所開設等支援事業を利用させていただき、5カ所の診療所が開設しており、最近では、平成28年度、平成29年度にそれぞれ1カ所ずつ若い医師から開業いただいておりますので、診療所の開設に向けて今後も事業の周知を図っていききたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

青海地区で医院が2つですか、閉院してしまい、かかりつけにしていた皆さんも困ってる現状があります。その状況と影響をどのように把握されていますか。

また、青海地区でのこれからの対応をどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

青海地域においては、平成29年末で1つの医院が休院、平成30年1月末で1つの医院が閉院されました。通院されていた皆さんは、ほぼ市内の病院・医院に受診されております。近くの診療所が閉院され、大きな不安を持たれていることと思っておりますが、治療を継続することは健康管理をする上で非常に大事なことでありますので、今後も市内の医療機関に受診いただくようお願いしたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

閉院した医院の近くにお住まいの市民の声によれば、まず風邪を引いたときにでも近くで診てもらえない。高齢者でひとり暮らしの方が糸魚川総合病院へ行くときの交通手段として足腰が痛く、バス停まで歩けない。また、バスの乗りおりが大変だといってタクシーを利用すれば片道3,000円、往復で6,000円もかかると。こういった状況への対応、デマンドタクシー方式か、せめて路線バスの利用をもっと便利にできないかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

青海地域の皆様とは、昨年度にかけて21回意見交換会を重ねてまいりました。その中でも特に高齢者の皆様から、今ほどご指摘のような同様なご意見をいただいております。これらのことも踏まえまして、また、今後もこれから青海地域の皆様方と意見交換を重ねながら、便利でなおかつ効率性のバランスというものを図られたダイヤ設定というものを考えていきたいというふうに考えておりますし、先ほども申しました自由乗降区間の設定に向けました検討ですとか、乗りおりがしやすい、いわゆる低床バスと呼ばれるものの導入につきましても市民、交通事業者、行政で組織をしております地域公共交通協議会の中に皆さんの地域の、青海地域の皆様方の声をお伝えしまして、青海地域におけ

る公共交通のあり方というものを検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

意見交換したその後ですよ。利用者の方の声が反映するように行政がやっぱり動かなきゃだめですよ。例えば路線でいえば、横町までのものを青海まで伸ばしてさし上げるとか、それから、病院の利用の時間に合わせてダイヤを組み直すとか、具体的にやらなきゃいけないでしょ。そういう話ってするのはやってるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご指摘をいただいております青海地域糸魚川総合病院から青海地域を結ぶバス路線としては、3つの路線がございます。今、ご質問いただきましたとおり時間帯によりましては、その中で横町5丁目が終点となっているバスがございました。数値的には、糸魚川病院から青海地域、大沢のほうまで行ける19便のうち、そのうち6便が横町5丁目どまりでございまして、その時間帯も昼を中心とした時間帯でちょうど病院が終わって帰ろうと思ったときに青海に帰れないというような実態が見てとれます。これらは当然、病院というのはお年寄り等にとっても行き先の主の目的の1つでもございますので、利用実態等も横目ににらみながらダイヤの編成というものを業者と一緒に考えていきたいというふうに考えております。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そこまでわかっているならやってくださいよ。市長、市長みずからバス会社かけ合って何とかありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今のお答えした担当のお答えした状況を見ておわかりのように、ダイヤ編成については市が大きくかかわっております。その中で今いろいろと地域の中へ出向いていったいろいろ情報共有する中で、なるべくやはり利便性の高い、そしてどちらかというと公共交通機関を使うのは、やはり高齢者の皆様方が医療機関へ行くときが多いわけでございますので、なるべくそれに合わせたものにして

いきたいと思っております。私が糸魚川バスに行かなくてもそういったところはやはり指示もできますし、そういった対応も今できると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

職員の方を信頼していらっしゃるんでしょうけど、やっぱりスピード感を持っていかないと、高齢者の方困ってるわけですよ。きょう、あすの問題なんですよ。どのように指示されて、いつごろまでにこれ直しますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

バスのダイヤというのは、やはりちょくちょく変えるわけにはいかないと思っております。1カ所だけ変えても、それが行って帰ってくるまでには時間が経過するわけですので、周りの人たちに影響が出てくるわけですので、周知等もあるわけでありまして。そういったことを考えますとそう簡単に年に何回かというわけにはいかんと思っております。なるべく今ほど指摘あったような点について解消できるような形の中でバスダイヤを編成し、そしてまた、それを周知してダイヤ編成時に対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

お願いいたします。

青海地区だけでなく、かかりつけ医師の高齢化は、市全体の課題であります。開業医の先生方の平均年齢とか、後継者については把握をされていますか。先生方には、いつまでもお元気で医療の現場でご活躍いただきたいと思っておりますが、限界もあるでしょう。医師会とはどのようなお話をされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

開業されている医師の皆さんの平均年齢は、平成30年4月1日現在で約62歳です。昨年度、出身医師の会を開催する際に、医師会にもご子息についての確認をできる範囲でさせていただいております。既に後継者の方が医師として一緒に診療しておられる方、ほかの地域で診療しておられる方、学生の方などそれぞれであります。今後も後継者の方が糸魚川市内でご活躍いただけるよう医師会と連携を図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

能生の国保診療所では、鬼頭先生に頑張っていただいています。経験を積んだ、しかも若い医師が地域にいて将来の医療ビジョンを思い描くことができ、非常にありがたい。そのことから、開業医の後を受けてくれる医師の誘致に市が全力で取り組んではと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

新たに診療所を開設する場合や市内の廃止となった診療所を譲り受けて開設する場合に、先ほど説明をいたしました医療機器等の整備補助を行っております。このような制度の周知に積極的に努める中で地域医療の維持・充実が図れるよう取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、みんなで支える地域医療体制づくり、行政の取り組みの現状と課題を担当課に伺います。

医療フォーラムも昨年12月には福井大学の井階先生による「市民・行政・医療の協働で地域の医療を支える」をテーマとしたもの、また、ことし2月には、富山大学の山城先生による「地域医療と地域包括ケアシステム」をテーマとしたものと大変充実した内容であったと評価をいたします。この機会に、その成果についてご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

どちらのフォーラムも糸魚川市の医療の現状を市民の皆様にご覧いただく機会になったと考えております。また、住民参加、住民主体が必要であること、市民、行政、医療の協働による地域医療のあり方、そして、自分の役割や自分にできることは何かについても考える機会になったと考えております。このような機会を継続して設けることが大事であると考えておりますので、今後も継続していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

山城先生の講演会、非常によかったです。そこで出されたキーワード、人材育成と住民参加ですけども、みんなで支える医療体制づくりには、医療・保健専門職の連携を図った先のみんなで支え

るというみんなに、市民がいかに加わり、また行動していくかということが課題だと思います。市民が責任を持って参加して行動する。この課題について担当課ではどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

2月の山城先生の講演会の後、グループワークを実施いたしております。地域医療を支える上で自分でできることなどを出し合いながら話し合いをいたしました。時間が足りないうらい活発な意見交換の場を持つことができました。参加者からは、今後、各地域でこのような機会を設けてほしいという意見もいただいております。より多くの方から参加いただき、実践していただくためにも専門職が連携しながら市民を対象に講座などを開催し、地域全体で医療を支える人づくりを目指して取り組んでいきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今、そういうフォーラムが糸魚川で開催できるということは、私はある意味幸せだなと思います。もう姫川病院の閉院の直後は、そんなことなんてもう考えられなかった。大変でしたね。それで、やはりみんなで支えるというところが一番大事だと思います。医療・介護専門職の連携は、非常に今できているということですが、やはりこれから市民に加わってもらうには、市民の意識を変えていく、これが大きな課題だと思います。行政からは、そのことを切実な問題だと考えていただきまして、旗振り役として頑張って取り組んでいただきたいと思いますが、その点について、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

田原議員のおっしゃるとおり市民の皆様が考え、主体的に行動することができるよう、そのことが大事だと考えております。医療、介護など他職種の方と連携し、取り組んでいかなければならないと考えております。

今年度は、企画推進会を設置しまして、講座の開催、情報発信を中心に取り組んでいく予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

しっかりと旗を振っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、包括ケアにおける行政の役割である保健師、栄養士の配置と活用についても伺います。

市民厚生常任委員会で調査に行った広島県尾道市、旧御調町の地域包括ケアシステム、議会初日に委員長報告の中で少し触れましたが、健康増進課長には、尾道市の地域包括ケアシステムの取り組みの資料もごらんいただきました。糸魚川市の施策において参考となった点があれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

田原議員から資料を見せていただき、また同行した職員から施設内容を説明を受けました。地域包括ケアシステムづくりには、行政、医療・介護などの専門職、市民の三者が集まる機会をつくること、そして、健康づくり座談会などを開催して市民と話し合い、活動する場を持つことなど住民参画の必要を感じました。

糸魚川市でも、今できている部分を大切にしながら、さらなる発展のために地域リーダーのリーダー探しと人づくりに取り組んでいきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

看護師が不足する糸魚川市においては、保健師の配置と活用が包括ケアにとって不可欠と私は思います。この点、病院の看護師からも期待をされているのではないのでしょうか。担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

現在、看護職の不足もありまして、地域包括支援センターへの保健師配置が難しい現状でもありますが、地域包括ケアにおいて予防支援を担う保健師が連携会議や個々のケース対応、また、医療との連携の中でリーダーシップがとれる体制が必要であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その点も病院ともう少し深く詰めて話をする必要があるんじゃないのでしょうか。期待をしております。

次に、栄養士の配置と活用について。私は以前にも栄養士の活用を提案し、病院と連携すると答弁をいただきましたが、どのようになったか伺います。健康管理と病気予防、病後の生活への支援こそ糸魚川市医療行政の働きどころじゃないのでしょうか。この点について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

栄養士は、健康相談会や健診後の個別指導、医療機関からの紹介による指導を積極的に行っておりますが、栄養士の活動について市民への周知をさらに図るとともに病院栄養士との連携も深めていかなければならないと考えております。栄養士や保健師などの専門職は、市民の健康増進、疾病予防、重症化予防に努めることが大事な役割であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

栄養士さんの活用、それから医療との連携ということが、これから大事だと思うんですね。市長はどう、根知に診療所を今度建設しますよね。その活用方法としてやはりこういう医療人材がそこに行って、地域のケアをしていく。高齢者、僻地の医療のケアをしていくということが糸魚川のテーマになっていくんじゃないかなと私、思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これは根知の診療所ができるから根知だけということではございませんで、以前から市内全域に対してはそういった指導を行ってまいっております。そういう施設ができますからそこでやっても、またいいと思っておりますが、そのようにやはり健康で長生きしていただくことが一番市民の望むところだろうと思うわけでございますので、今ご指摘の点についてもしっかりと構築していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

保健師、栄養士の配置と活用を糸魚川の医療介護、地域包括ケアの目玉としてはどうでしょうか。こういう町ぐるみの取り組みがあるところへ、大学からの応援があり、医師の派遣があり、市民の理解が進み、地域医療体制が確保されていくのではないのでしょうか。私はそう確信します。そのためには、まず行政が常にみずからの役割の理解をして、意識改革をしていくことが求められていると思います。今後の取り組みについて、市民部長に包括的で先進的な答弁を期待して伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本市民部長。〔市民部長 山本将世君登壇〕

○市民部長（山本将世君）

お答えいたします。

地域医療におきましては、これまでも担当課長が申しあげましたように当市の地域の医院の現状につきまして市民の皆様方に正しく理解をし、意識を変えていただくことが重要だというふうに考えておりますし、また医療現場におきましては、医師を初めといたします医療スタッフの人材の確保が大切な、重要であり、今後も医師会、また糸魚川総合病院と連携をとりながら進めてまいりたいというふうに思っております。

また、今お話がございました地域包括ケアシステムにつきましては、国のほうでは地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り住みなれた地域でそれぞれの有する能力に応じた自立した生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制という形で進められておまして、当市におきましては、これまで医療と介護の連携という部分の中で顔の見える関係づくりとしてひすいプロジェクトなどを進めさせていただいたとでございます。

今後につきましては、さらに医療と介護の関係する皆様方の連携を進めますとともに日常生活圏域を単位といたしました第二協議体を設置し、生活圏域において自立した生活の支援が送れる仕組みづくりを進めてまいりたいというふうに思っております。この協議体への協議におきましては、健康増進と予防の視点も取り入れながら先ほどからお話がございます保健師、栄養士等を初めといたします行政職員も加わりながら進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域包括ケアの旗をしっかりと振っていただくということと、それから協議体の運営ですよ、ここに行政がどのくらい加わって、うまく運営していかれるかというところが大事だと思うんですよ。人ごとと捉えずに市民一人一人が自分のために地域包括ケアのシステムをつくっていただくところが大事ではないかなと思います。これからもよろしく願いいたします。

では、駅北大火からの復興再生について、2回目の質問をいたします。

まず、被災者や地域住民の思いに沿った市民が主役の復興再生になっているかどうかの確認について担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

被災者対象でブロック意見交換会等で周辺の周知や意見交換等を行っておりますが、意見交換会については、3月と今月全ブロックで、まだ今月の分についてはまだみんな終わっておりませんが、開催をしております。6月12日の開催分までで、おおむね140人ぐらいの方に参加をいただいております。

また、ブロックの意見交換会だけではなくて、3月以降、20ほどの団体、商店街さんとか商工

会議所さんとか、そういった方々との意見交換会も行っております。今後、被災者説明会については、もう少し今まで被災者及び関係者と言っておりましたが、その幅を広げて参加いただく予定にして進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域住民の思いに沿った計画と実施であるというところ大事なんですけども、3月以降から説明会が始まったというその背景はどういったことなんでしょう。もっと早くに始められなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

前段の昨年度もブロック意見交換会等については行ってはきております。どちらかというお話はご自宅の再建とか、敷地の再編とかのお話を意見交換会させていただいたことが多かったというふうに考えております。

まちづくりのそのものにつきましては、いろいろ市内でもいろいろ検討している中で、ようやく地域の皆様に状況を説明できる段階になったのが、一番最初が3月ごろであったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

意見を聞いて、検討して実施するというのが普通、段取りだと思うんですね。そこに議会の理解も当然入ってくる。だけど、行政がやってること見ると、とっとと先行ってませんか。議会が一番何か置いてかれてるような気がしますね。一番心配なのは、地域住民とのコンセンサスなんです。地域住民と話し合った結果はどのようなものでしたか。また、それはどのようにこれから生かされていきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

現在、まだ6月の分については、いろいろ進めている最中ですが、おおむね説明をさせていただいた内容等についてはご理解をいただいているというふうに考えております。

ただ、どちらかというにぎわいという話を中心になりがちである部分について、生活再建といえますか、そこでの生活をしっかりしていきたいんだと。静かに暮らしたいというようなご意見も

あります。そういったことも加味して今後のまちづくり、まだ計画等についても現段階ではまだ計画中和。これからそういったご意見を伺いながら、もう一度またフィードバックして、それを最終的な計画のほうに反映させたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

5月28日の個店の魅力アップ女性の会との意見交換会の内容と状況を詳しく教えてください。何名の出席で、どんな資料が出され、どんな説明があり、どのような意見・要望がありましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

街なか女子部さんについては、すみません、正確な記録、まだ私手元に持ってきておらないんですけど、たしか10名ほど、もう少しかな、12名ほどいらっしやっただと思います。その中で意見交換をさせていただきました。

そこには、現在の復興の工事、道路の整備とかそういったものの状況と、それから現在にぎわい創出広場と言っております、あそこの北越銀行さん脇の広場の現在の計画、今作成中ですが、それらの素案についてのお話をさせていただきました。基本的には皆様から大体のご理解はいただいたというふうに私理解はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

質問を聞いてください。

理解をもらったということは答弁でなくて、どのような意見・要望がありましたかと私、聞いてるんですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。すみませんでした。

まだ私のほうでも手元で整理したものを持ってきてはならないんですけど、あそこの場では、やはりもう少しにぎわいづくりのためには、いろんな情報発信の方法とかも丁寧にする必要があるのではないとか、それから、そのようなお話がありました。あと、そのほかについては、すみません、ちょっと今整理をしてきておりませんで申しわけございません。今のところ今のようなお話があったというふうに記憶しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

しっかりしてください。

6月13日の本町通り沿線の住民との意見交換会の内容と状況を詳しく教えてください。何名の出席でどんな資料が出され、どんな説明があり、どのような意見・要望がありましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

6月13日につきましては、たしか6名ほどの方が出席をされていらっしまったと思います。ご意見としては、特にあそこで、周辺といいますかあそこ以外のところで商売をされているんだが、今回の本町通り付近で商売をされたいというときに、空き店舗とかそういったところの改修とか、どういったことがあるんでしょうかと。どうすればいいんでしょうかというご相談があったのと、あと、あそこに地場産を売って、地域の買い物に困っているんで、そういったところでの地場産品を中心にした販売をする商店とかを持ってこれないのかとか、そういったご意見を伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

5月28日と6月13日の配付資料に、いわゆるにぎわい広場に計画した鉄骨の大きな建物の詳細図面がありました。これですね、これであります。

また、建設スケジュールも、あたかも決定事項のように説明をされていました。私は、そこで初めて見て、聞いてびっくりしたんですが、これ議会軽視ですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

決して我々、議会の皆様を軽視しておるわけではございません。

ただ、今回の計画、かなり詳細に書いてあるようですが、まだ本当に粗い計画の段階でして、これから今後予定されている特別委員会とかにも説明をさせていただく予定で、この内容については説明をさせていただいております。決して、まだ固まった計画というわけでは、特ににぎわい広場の建物については固まった計画というわけではありません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それは詭弁ですよ。今、工事中の200トンと防火用貯水槽の上の広場の利用と建物の計画が何も議会に示されないうちに住民・市民に示された。しかも、隣近所にはイベントのときには音がしますとか、敷地境界に樹木を植えますとか、細かい話をして回ったというじゃないですか。これどうなってるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

200トンの防火水槽につきましては、恐らくたしか3月の議会であったと思いますけど、ご説明をさせていただいてると思います。広場周辺の皆様については、やはり少し前ふれで今のところこういったことを考えてるんですけどよろしいでしょうかというお伺いを立てているのとあわせて、近隣になりますので、敷地境界とかということも今後どうしていきましようかということで、お伺いを立てておるところです。今後、議会へも説明をしながら最終的な詰めについては、まだこれからということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

どうして話ごまかすんですか。私はここの隣の人のところへ行って聞いてきたんですよ。今の課長の説明と違いますよ。防火水槽を埋めるというのは、3月聞きましたよ。あつという間に工事やっちゃった。今やってますよ、最中ですよ。どういう利用計画にするのかということに関しては、上に木造2階建て程度のは建てられますとあって、それっきりじゃないですか、でしょ。それなのにどうしてこういう図面書いて、このように使いますという具体的なものまで入れたもので説明するんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

先ほどからもお答えしているとおり、まだその計画については固まっている状態ではありません。たたきの台として皆さんとお話を進めていくためのものとして活用させていただいているものです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この後の私の質問でこのにぎわい広場の建物の資料が必要なので、議場の議員に配付してください。

○議長（五十嵐健一郎君）

暫時休憩します。

〈午後3時07分 休憩〉

〈午後3時10分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

25分まで暫時休憩いたします。

〈午後3時10分 休憩〉

〈午後3時25分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村副市長。〔副市長 木村英雄君登壇〕

○副市長（木村英雄君）

お答え申し上げます。

先ほど議員のほうからご指摘のありましたにぎわい広場の資料につきましては、いわゆるたたき台というものでございまして、今現在、被災者の皆様、近隣住民の皆様、そして今後、利用されるような皆様のほうからさまざまなご意見をいただくための資料でございます。これはいただいたご意見に基づいて日々とまでは行かないまでも、さまざまな変更を今随時行っているところでございまして、決して皆さんからこれでやりますというのを了解いただくというものではなくて、こういう方向で考えてるけどどうですかといった形で、これはいいんじゃない、これはだめじゃないといったご意見をいただいている段階でございます。この資料については、議会の皆様にも20日に予定されております特別委員会のほうで、そういったご意見も含めて皆さんのほうに説明申し上げ、またご意見を改めていただいて決定していきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その点については、了解いたしました。

そこで、市民が主役の復興再生計画になっているということをもう少し説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

市民が主役の復興まちづくりという部分については、やはり今後もこれからまだまちづくりに向けてのご意見を伺う場を、やはりまだ設けていかなければならない状況かなというふうに考えております。そういった中でまちづくりは、やはり行政は当然やっていかなければならないですが、やはり市民の皆さんからも自分たちのまちづくりについていろいろ考えていただき、一緒に行動していただくということも大事だと思っております。そういった形で市民が主役となったまちづくりに向けてという、そういったまちづくりについて今後も進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民が主役なら行政は何の役なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

行政は、やはりそういった部分については、サポート・支援、そういった部分に回っていくんであろうというふうに考えております。

ただ、やはり両方で進めていく協働という部分がまちづくりではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

協働で進めるまちづくりって、そらまあどっか教科書のあれでしょ、見出しみたいなものでしょう。もうちょっと糸魚川の復興のことを考えて、何をどうするという答弁ないんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

あくまでも我々が主役、行政側が主役ではなくて、住民の皆さんが主役、そういった中で我々も一緒に考えて支援をしながらといいますか、一緒にまちづくりをしてかんなんらんといいことだと思います。その中でいろんな仕組みも考えていかなきゃならないとは思いますが、今後は、またそういったまちづくりに向けてのご意見をいただく場というのでも設けて進めていきたいというふうに考

えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

意見の場をつくっていけば、それで進むんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

意見をいただくだけで進むわけではありません。そういった意見をいただきながら、行動・活動につなげる、事業につなげていくといったことも我々としては一緒にやっていかなきゃいけないということでもありますので、意見聴取だけをして、まちづくりを進めていこうということではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

伺います。

プレイヤーとはどんな人のことを言うんでしょうか。また、行政からの支援・サポートは、どのようなことなんでしょうか、伺います。具体的には、1つ例を出せば、復興まちづくり情報センターで勤めてる人は、プレイヤーじゃないんですか。今2つ伺いました。3つですかね、伺いました。お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

最初のプレイヤーとは、どういう人かということですが、やはりまちづくりの行動・活動を行う方、実際に自分たちで考えて、自分たちで行っていただく方がプレイヤーであろうというふうに考えております。その中で行政の役割とは何かと、そのプレイヤーが育っていくことを発掘することと、育てていくことも行政の役割ですし、そういった方の活動を支援していくということも行政の役割だろうというふうには理解しております。

それから、復興まちづくりセンターにつきましては、そこでの今いる職員がひとつ中心になって、そういったプレイヤーとなるべく、ちょっと個別に自分たちのまちづくりの組織を立ち上げてきております。そういった中で、あそこのセンターが1つのまちづくりの活動の発信地や拠点になれば、それはまたすてきなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

すてきは結構だけど、情報があそこに集まっていますか。近隣の方があそこに行って、いろんな意見述べてます。それが皆さんに伝わってますか。何か、おしらせばんみたいなパウチした絵を配ってるみたいだけど、皆さんその情報センターの人が何やってるかわかんないと言ってますよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

情報センターそのものには、今までの大火の状況から復興までに向けてのいろんな記録の展示もしております。それから、視察の受け入れ、案内等もしております。

もう一つは、近隣の商店街の皆様が中心なんですけど、復興情報のHOPEという情報紙を発行ごとに配っております。それは戸別訪問で配っております、できるだけ入って、そこでお話をお伺いしながら配ってくると。ここに置いてくださいということをお願いしながらいろいろまたお話を聞いてくるといった活動をしていただいております。彼ら、彼女らがいろんなところで聞いたご意見については、我々のほうにも報告はいただいております。必要なものがあれば、行政職員のほうで対応するべきものは対応させていただいておりますし、まちづくりのお話だけではなくて、再建や生活への相談とかといったものもあそこで受けております。

あと最初のころは視察や見学の方が多かったんですけど、最近、被災者の方が訪問されるということが多くなってきているというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

わかりました。引き続き、課長のほうからご指導いただきたいと思います。よろしく願います。

6月13日の住民説明会にて、プレーヤーをにぎわいづくりの人材と説明をしておりました。

ただ、プレーヤーとされる条件が、私にはよくわからなかった。誰もがプレーヤーになって、誰もが支援を受けられるということではないのでしょうか。ここら辺、もう一度ご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

プレーヤーにつきましては、やはり議員おっしゃるように誰でもなれるものではないかというふうに思います。というのは、人はそれぞれいろんな行動を起こせるわけでして、必ずしも大きなイベントをやるのがプレーヤーだということでもないというふうに思っております。小さな花を植

える活動とか、そういったことでもプレーヤーになり得るといふふうに思いますので、やはりどのような行動を起こすか、活動をしたいか、そういったお気持ちがあるかどうか、そこらあたりがプレーヤーの条件ではないかなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

6月13日の説明会で、プレーヤーが育ってないというふうにお話があったんですよ。その後、セミナーとか講習会に行ってもらったって。何でしょうかね。これまた後で伺いますね。

市外から来た若い人、それから、商売のいろはもわからないでイベントを企画してやる人をプレーヤーと言って、市内で商売をしていて本町通りあたりに出店したいという人、この人たちには商工会議所へ行って相談をしてくれと。そういうせっかくの出店相談の話が、この前も6月13日の説明会で出たんですけども、なぜもっと親身になって行政は対応しないんですか。私には、そう受け取れました。まず、ちゃんと聞くのが仕事でしょ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今ほどのお話は、あの場で市内ですけど出店を希望する方がいるんだということで、相談を受けているというお話の内容かなと思われまます。これについては、どうも会議所のほうの役員さんのほうに、どうも一度相談をしていたというふうにはお伺いしておりますけど、じゃあどこへというあたりが、やはり余りよくわからずに市のほうでもそういった情報は捉えきれていなかったということで、あの後、連絡先等を確認させていただいて、今後、また連絡をとって対応させていただきたいと思います。

これらについては、やはり特に今回の被災エリア等中心地については、やはり会議所等との連携というのもこういった部分では大事かなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私ね、8人いた行政職員の方の対応に非常によくはないものを、自分でそういう感想を持ったんですよ。斉藤課長は、あそこにいましたよね。どうしてあの場面でオープンクエスチョンで聞かないんですか。少し聞きだせばいいじゃないですか、課題を。掘り出しやるでしょ、皆さんそういう研修やってるんじゃないですか。それを市民のためになぜ使わないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

あそこでのオープクエスチョン、質疑の中での問いかけでは、職員のほうからはオープンなクエスチョンになっていたというふうには感じております。

ただ、なかなかいきなりの、どう思われますかと何か感想ありませんかというお話で、なかなか答えられる、お答えいただける雰囲気ができてなかったのかもしれませんが。この辺については、我々も会議の進め方等について、やはり研修・研さんも進めなきゃいけないとは思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

あそこで出た話を少し思い出していただきたいんですけど、市内で商売をされている魚屋さんと言ってましたかね。そういう方が本町通りに出店したいという声をやっぱり現実につなげていきたいと思いませんでしたかね。今度つくるにぎわい広場のプロジェクト、いろいろとあるようですが、そういったものの中でも、この魚屋さんが、もしそこに来てくれたら、スーパープレーヤーになるとは思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

我々そのまんまの話をそのまんま、ただ置いとくということではなくて、もうその会議終わった後で連絡先をお伺いしております。その後、ちょっと商業系の担当のほうでどこまで話をしたかというのは、私まだこの場では確認はできておりませんが、非常に貴重なお話であったというふうに思っておりますので、今後そういった方とのやはりアポイントメントをとっての、どんなお気持ちなのかとか、どういった条件が必要なのかとか、それから空き家・空き店舗、どんな状況なのかといった、やっぱり意見交換といいますか、お話し合いというのが今後必要ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

魚屋さんの出店の件につきましては、職員から報告を受けまして、その規模とか内容によるんですけども、必要な支援をするように指示をしたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

後の対応があったということで、ちょっと安心しましたが、ただ、あの場面での説明の答弁もよくなかったと私思います。糸魚川市市役所職員全体の質と意識が問題にされると思います。市民

のために働こう、そういう気持ちがあふれてたかどうかなんです。この辺は早急に改善をしていただきたいと思います。8人も残業して会議に出てたんですよ。その人件費って幾らぐらいなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

正確ではないかもしれませんが、8人で2時間ぐらいで16時間となりますと約3万2,000円ぐらいになろうかなと超勤については。ただし、私どもの、私と五十嵐については、それは適応されませんので、金銭的にはもう少し低いかなとは思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それが一般市民の物の見方だということでお伝えしました。

雁木の再生について伺います。

大火前の雁木は、本町通り全体ではどうであったのか。また、計画でどのぐらい再生するかということ。これはハード面の計画です。

また、雁木と町屋の歴史ある町並みをちゃんと理解した上で再生しようとしているのか。市役所職員、学識経験者、現地調査し、提言した大学と学生、この皆さんが、雁木を再生させることで歩きやすいまち、歴史の風情が薫るまちとなるように仕事をしたのか。これはソフト面の計画と運営ですが、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

大火前の本町通りの雁木につきましては、片側330メートルで通りの南北に設置されておりました。平成5年度に商店街の皆様のご努力によりまして、全面的な修復が行われております。修復後については約380メートルということ聞いております。今回の大火では、約250メートルが焼失しまして、現時点では、そのうちの8割、約200メートルが再建すると見込んでおるところでございます。

また、本町通り商店街の皆さんが大切にされてきたおもてなしの気持ちのあらわれであり、雁木の再建につきましては、そこに住み、商売を営む皆様とも意見交換を重ねた上で進めてきておるところでございます。市といたしましても復興のシンボルであると捉えております。今後とも学識経験者のご意見や長岡造形大学の提案も踏まえた中で再建を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この雁木再生とにぎわい広場の建物建設は、一体のものだと私は思います。両方なければだめなんです。いかがですか。

それと、にぎわい広場の本町通りに面する約25メートルの間口には、当然、雁木をつくってそれがにぎわいづくりに役立つ、このような使われ方をしていかなければいけない。その点はいかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雁木通りと本町通りの町並み、また、雁木の下空間と広場の空間というのは、一体的な活用が理想であるというふうに考えております。市といたしましても、にぎわい創出広場には雁木を設置して、一体的な活用ができるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

1回目の市長答弁で、雁木のことを象徴というふうに言っていただきましたかね。雁木と広場でにぎわいづくり、これだけは失敗できませんよね。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今ご指摘のとおり、糸魚川の町並みの中で雁木は外せない施設だと思っております。そういう中で我々の考えている事柄、また今これから雁木をつくっていただく方々のいろいろなまた課題等もすり合わせをすることも必要だろうと思っております。そのようなことで、議員ご指摘のようにしっかりと、このにぎわいまちづくりを計画の中でしっかりと位置づけの中で雁木を扱っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

建設費の上乗せみたいなことも説明にありましたけど、結局、底地は住民の方のものなんですよ。本来であれば市がそこを買い上げて、市が雁木をつくっていけば1つ復興再生のシンボルになったかなと思いますけど、なかなかそれぞれの皆さんにお任せしますというんじゃ難しい面があると思いますけど、これうまくいくんですか。ほぼ全部雁木できるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほどもご答弁させていただきましたけども、今約8割の方から再建、市の用地のところを含めまして約8割の方から再建いただけるものと見込んでおりまして、引き続き、この率が上がるようにお話しをして、ご了解をいただいてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では次に、JAの食彩館のような地元食材、野菜が買えるところを近くにどの地域住民の要望については、1月25日と2月13日の特別委員会で私から要望し、会議録もあります。それ以降の特別委員会は、いつも時間切れの不十分な審査で話ができませんでした。中村委員長には2月14日に文書でお伝えしました。3月23日の行政と商工会議所小売商業部会意見交換会でも話を出し、前任の課長は聞いています。公の場での市議会議員からの要望がその後どうなったのか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

JAひすいにおきましては、現在の食彩館に売り場、駐車場など多少規模をふやした施設で、過去の経営実績を踏まえながら産直所の経営シミュレーションを行っております。それによりますと市内で出回っている糸魚川産の野菜の5割以上が既に食彩館で直売されており、200名弱の産直会員の高齢化と会員の減少で野菜等を安定的に今以上確保する、ここに課題があって、現在、食彩館のような直売所の本町通り商店街への開設には、まだまだ課題があって、それに向けた取り組みに至っておらないというのが現状であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

さまざまな課題があるということですね。地元食材、野菜の供給については、有志議員でJAひすいさんへ出向いて話を聞いてあります。担当課では、これまでどのような動きをしてきたかということ。つまりJAひすいさんといろんな話をしてきたのか、あるいは野菜を供給してくれる、生産してくれる農家さんをどのように確保していくのか等々ですね。そういったところを課題がありますで済ましちゃだめなんですよ。それ考えるのは、課長のセクションなんじゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

提案として、本町通り商店街に食彩館のミニショップの出店をしてはどうかというような提案を
してまいりました。

しかしながら、経営的な判断と、先ほどお話をさせていただいたように販売する野菜の確保に課
題があり、現状では困難であると伺っております。現実的には、いきなり新たな店舗を構えて通常
営業を行うというよりも、むしろ空き店舗・広場を活用して朝市でありますとか、軽トラ市だとか、
無人店舗などの形式によって極力経費を抑える中で、採算性、それから継続性などの見通しを立て
るような取り組みから始めるべきではないかというふうに考えておりますし、また、議員お話のよ
うにJAひすいのみならず、生産者とも産直会員ともこういう話については協議をさせていただき
たいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

付加価値つけて売れるような方法も考えていかなきゃいけないし、やはり町なかに小さな経済の
循環が生まれるということが復興再生の一番の基本になると思うんですね。それをぜひやってい
ただきたい、知恵を出してください。私、そういう場所がやはりできることで、そこに人がやって
きて、にぎわうことが、このにぎわい広場建設の本来の目的だと思うんですよ。直売所の日常のに
ぎわいとマルシェイベントの非日常のにぎわいと両方あってこそですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

確かにイベントのときだけお客さんが大勢おいでいただいて、日ごろは閑散としておるとい
うのは正常な姿ではなくて、日常もある程度、人の姿が見えるということが必要だというふう
に認識しております。そういうことの中からJAひすいの食彩館というのは、そういう1つの核
になれるんじゃないかというふうにも考えられますので、先ほどもお話をさせていただいたよ
うに店舗で販売する野菜または加工品、こういうものの生産拡大から取り組む必要があるん
だろうなというふうに考えますので、JAひすい、それから産直会員の方々と協議をさせ
て検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

お忘れになってるわけじゃないと思いますけど、やっぱり地域住民の方も一緒に話さな
きゃいけないんじゃないですか。それから、ここを応援してくれる人をやっぱりふやして
いくということは

大事なことですよね。そういったところの情報発信こそが、今一番求められているんじゃないでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

まさしく議員おっしゃるとおり地域の住民の方とも意見をやはり交換しながら、そうしたにぎわいづくりに向けていかなければならないというふうに思っております。それには情報発信も大切ですので、我々も今後もできるだけ丁寧に地域の皆さんとの話し合いの場を設けながら、なおかついろんな、今ほどあったJAさんや産直やっただけそうな農家さんとか、いろんな事業を展開していただいけそうな方との話し合いも持っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民に寄り添う復興再生というならば、広場には本町ふれあい直売所をぜひつくっていただきたい。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今当然、我々もそれを望んでおるわけでありますが、以前あったやつがなくなったという経過も考えたときに、やはりその辺のことを考えて、やはりしっかりと今、議員もいみじくも発言いただいているように市民の方に理解をしていただかないとだめだろうと思っております。ただつくればいいというものではないだろうと思っております。やはりもしかして提供した方々が、非常にこの課題を抱えてしまうということも考えられますので、そういったところをしっかりとやりながら進めていかないと、やはり片方だけよくて片方が悪いという形になっては困るわけでありまして、その辺が今ほど質問もあったり答弁をしとるわけでございますが、市民の皆様方としっかりとした情報交換をさせていただいて進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

残念ながらそれだけじゃ動かないですよ、まちは。だからこそ、「まちやど」とか「エリアノベーション」、こういったものを考えて復興再生しなければいけないんじゃないですかと、私は質問に出してるわけですよ。そのことをご理解いただきたいなと思うんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ただ、やはり我々は復旧だけではなくて、復興という形でにぎわいをつくっていくということは今までこのまちが少し元気をなくしてる部分があるわけでありますので、そこまで考えていったときには、果たしてどのような形で行けばいいのか、非常に大きなエネルギーが必要であるわけであります。それは行政だけでできるものではございません。そういったところをしっかりと市民の皆様方や、また商店街の皆様方と、また商工会議所などいろいろな団体と連携をとって進めていかなければ持続可能なものにならないと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

本町通りの方のお言葉を1つ伝えます。

市長は、本町通り等が元気がない、元気がないと言うけども、我々は生きてるよと、毎日、商売頑張ってるんだと、死んじゃいないと、そのことをご理解いただきませんかと皆さん元気出ないんじゃないですか。だから私は、一番最後のところにバイタリティーという言葉を使ったんです。頑張ってください。よろしくお願いします。

終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、「権現荘元支配人の不起訴について（修正版平成30年6月1日付）」の解釈について。

(1) 市は捜査対象者の元支配人になぜ連絡をとっているのか。

(2) 市は平成29年4月と5月の時期に2回も市の顧問弁護士に損害賠償の可否について、なぜ相談をしているのか。

(3) 平成29年7月に元支配人より迷惑料の自主返納の連絡があるが、この意味は不起訴にしたいという説明はあったか。

(4) 「市としてはさまざまな角度から警察の捜査が行われたものと考えており」とあるが、その根拠は何か。誰に何を確認しているのか。

(5) 「元支配人による管理運営についてさらなる市の調査は考えていない。」とあるが、そも